

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立狭間中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 生徒の人権が尊重される学校づくり | 2. 生徒理解に基づく生徒支援の充実 |
| 3. 学力向上 | 4. 教職員の実践的指導力の向上 |
| 5. 働きやすい職場環境の整備 | 6. 開かれた学校づくり |

3 総合的な自己評価

授業では多くの生徒が落ち着いて学習に取り組み、日々の学校生活も頑張っている様子が見られる。「学校評価アンケート」では、教育活動の満足度について、生徒 93.3%、保護者 84.1% が肯定的に評価し、いずれも昨年度より5ポイント以上増加した。一方で、昨年度課題となっていた生徒理解に基づく適時適切な指導は評価が向上したものの、生徒が感じる規律正しく落ち着いた学校生活や保護者が求める基礎学力の定着についての評価は大きな変化がなかった。

次年度は、これらの結果を踏まえ、生徒自身が考える「落ち着いた学校生活」を丁寧に把握し、安心して過ごせる環境づくりを進める。また、基礎学力の定着に向けては、保護者との連携や情報共有を強化し、生徒の学びをより確実に支える教育活動に取り組んでいく。

4 総合的な学校関係者評価

「学校評価アンケート」の結果から、生徒は落ち着いて学校生活を送り、学校運営も概ね良好に進められている。但し、課題として示された項目については、適宜改善が求められる。

・生徒の主体的な活動については、生徒会が中心となって取り組んでいて活発である。体育大会生徒会種目の企画や文化祭のオープニング、小学校への出前授業、校則の見直しなどを頑張っている。特に、今年度は挨拶運動の活性化があった。

・部活動の地域展開には不安な部分もあるが、関係機関との連携を進めていく必要がある。

・生徒数の今後の減少見込みについては受け止めつつ、より良い学びの場をどのように確保していくべきか、その意見を市に拾い上げてもらいながら進めていけるようにしてほしい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	・年間の標準授業時数を確保する	・計画的に時間割を編成し、標準授業時数を確保した。 ・今年度限りの万博参加を学習機会として活かし、学校行事をより有意義にした。	・授業時数の確保は、随時進捗状況を確認して計画的に進めていく。 ・これまでの成果を生かし、更に魅力ある学びとなるように学校行事等を工夫していく。	・万博での体験を通して学びの幅を広げ、実物に触れる貴重な機会となった。 ・地域の利点による公共交通機関を活用した校外学習は、生徒の主体的な行動力につながる。
	・教育活動を見直し、精選と充実を図る			
	・適切で充実した学校行事を実施する			
学習指導	・目標を明確化したわかる授業により、基礎学力の定着を図る	・ICTの活用等により基礎学力の定着を図っているが、成果はまだ十分ではない。 ・人間尊重を基盤とした丁寧な指導が今後も求められる。	・基礎学力の確実な定着を図るため、効果的なICT活用を含む指導方法の工夫・改善を進めていく。 ・目標を明確にし、生徒が主体的に学べるように取り組んでいく。	・学校と学習塾の違いを意識しつつ、生徒が学びたいと思える授業づくりや学習環境を整えていくことが必要。 ・デジタルとアナログのバランスが大切。それぞれの利点をどう生かすかが求められる。
	・ICTの活用等で、自発的思考力や表現力等を高める			
	・命や人権を大切にすることを育てる			
生徒指導	・規律正しく、落ち着いた生活を確保する	・落ち着いた生活環境が概ね維持できている。 ・「いじめアンケート」や教育相談の情報に加え、日々の様子からも生徒理解を深め、いじめの兆しを含む課題に組織的に対応している。	・「いじめ見逃しゼロ」の意識を徹底して兆しを早期に把握し、法に基づく適切な対応を確実に行うため、情報共有と組織的支援体制を強化する。 ・ハイパー・QUや教育相談を活用し、生徒理解を深めるとともに、個に応じたより丁寧な指導・支援を継続する。	・全体として落ち着いているが、公共施設で騒がない等、マナーに関する指導が必要。 ・生徒一人一人に対して、一方的な指導ではなく、コミュニケーションを大切にしたいより丁寧な対応をお願いしたい。 ・愛情のある指導によって、生徒と教員の信頼関係を築いていくことが大切である。
	・いじめや暴力を許さない学校文化をつくる			
	・教育相談を充実させ、共感的生徒理解に基づき支援する			
	・個々の生徒が認められ活躍できる学級・学年活動を行う			
安全・保健管理	・安全で安心な生活環境を整備する	・毎月1回安全点検を実施。 ・情報モラル教室や避難訓練等を実施して啓発してきた。	・暑さ対策としての体育大会10月開催を継続する。 ・交通安全の意識向上にも努める。	・引き続き暑さ対策を十分に考えてほしい。 ・交通事故防止に向けては、車の運転手側からの目線で考えさせることも必要。
	・危険回避の安全教育と安全指導に努める			
保護者や地域との連携	・学校や生徒の様子をわかりやすく伝える	・毎月1回学校便りを発行。 ・オープンスクール、体育大会、文化祭等に保護者多数来校。	・保護者や地域ボランティア等の活用。 ・学校行事や授業参観等で頑張っている生徒の様子を見ていただく。	・PTA活動は閉じるが、「できるときに・できることを」の思いによる家庭や地域からの支援は今後も必要。ボランティア等の協力を願う。
	・保護者や地域の力を活用し、教育活動を充実化させる			
研究・研修	・研究テーマを設け、実践的指導力の向上に努める	・校区小中学校と相互授業参観や合同研修会等を継続し、授業力向上に努めた。	・「ほめてのばす小中一貫教育のあり方に関する研究」を深めていき、児童生徒の自己有用感の向上に努める。	・小中が互いに授業参観や研修を行うことで、教科指導の質を高め、児童生徒の頑張りや自己肯定感の向上につなげてほしい。
	・校区の小中で目指す子供像を共有し、小中一貫教育を進める			
職場環境の整備	・タイムマネジメントを意識した上で、勤務時間の適正化を図る	・超勤状況は残るが、勤務時間適正化への声掛けは増えて意識は高まりつつある。	・部活動の地域展開を踏まえた適正な勤務時間を意識できるようにする。 ・コミュニケーションを大切にし、ハラスメントを許さない職場の雰囲気を作る。	・教職員の業務改善に向けては、家庭や地域からの理解・協力は欠かせない。 ・教職員も一人の人として大事である。
	・ハラスメントのない働きやすい職場づくりに努める			